

関西国際空港の概要

関西国際空港の特徴

- ・環境の保全に配慮した海上空港
- ・日本を代表する完全24時間空港
- ・国際線と国内線のネットワークが充実し、乗り継ぎが便利な空港
- ・道路、鉄道および高速船等による多様なアクセスが充実
- ・島内に浄化センターやクリーンセンターを設け、島内のものは島内で処理

開港日	1994年9月4日	
位置	大阪湾南東部 泉州沖約5kmの海上	
規模	面積 1期空港島	約510ha
	2期空港島全体計画	約545ha
	A滑走路	長さ3,500m、幅60m
	B滑走路	長さ4,000m、幅60m
空港連絡橋	道路・鉄道併用橋	長さ 3.75km



空港運営



ECO Island

エコ愛ランド推進計画



関西国際空港環境管理計画

Kansai International Airport Environment Management Plan



ECO Island

エコ愛ランド
推進計画

当パンフレットの記載内容に関するお問い合わせ先

関西国際空港株式会社 計画技術部 環境グループ

TEL : 072-455-2169 FAX : 072-455-2050

URL : <http://www.kiac.co.jp/index.html>



✦ エコ愛ランド推進計画とは？

関西国際空港は、「公害の無い、地域と共存共栄する空港づくり」を原点として、平成6年9月の開港から14年が経過しました。平成19年8月2日には新たに第2滑走路もオープンし、さらなる発展を遂げようとしているところです。

関西国際空港では、平成13年6月に、空港島全体を対象範囲として策定した「関西国際空港環境管理計画（エコ愛ランド・プラン）」にもとづいて、大気や水質といった環境への負荷を可能な限り低減するために、30項目にも及ぶ様々な環境施策目標の達成に取り組んできました。

第2滑走路の供用開始に伴い、「関西国際空港環境管理計画（エコ愛ランド・プラン）」の計画期間が終了したことから、このたび更に取組を継続・発展させていくために「エコ愛ランド推進計画（改定環境管理計画）」を策定しました。今後とも空港機能の維持と環境の調和のため、地球環境的視点に立ちながら、地域環境と共存し発展していく「エコ愛ランド（人と自然にやさしい空港）」を目指し、今まで以上に環境保全に取り組んでいきます。

このパンフレットをご覧いただき、関西国際空港の環境保全への取組について、ご理解・ご協力いただければ幸いです。

✦ 計画の基本

1. 計画期間

2008年度から2012年度までの5年間

2. 対象活動・地域

空港島全エリアで、空港業務に携わるあらゆる事業者や利用者の活動を対象とする
関西国際空港株式会社で管理できる範囲外については、島内事業者等に積極的に働きかけ、その協力を得ながら取組を進める

3. 目標の設定

- 計画に定める取組の効果をわかりやすく把握できるものとし、可能な限り数値的な目標を設定する
- 目標の取組状況、達成状況については毎年把握、公表するとともに、地球温暖化に関する国際情勢等の把握に努め、適宜、目標等の見直しを行う

4. 推進体制等

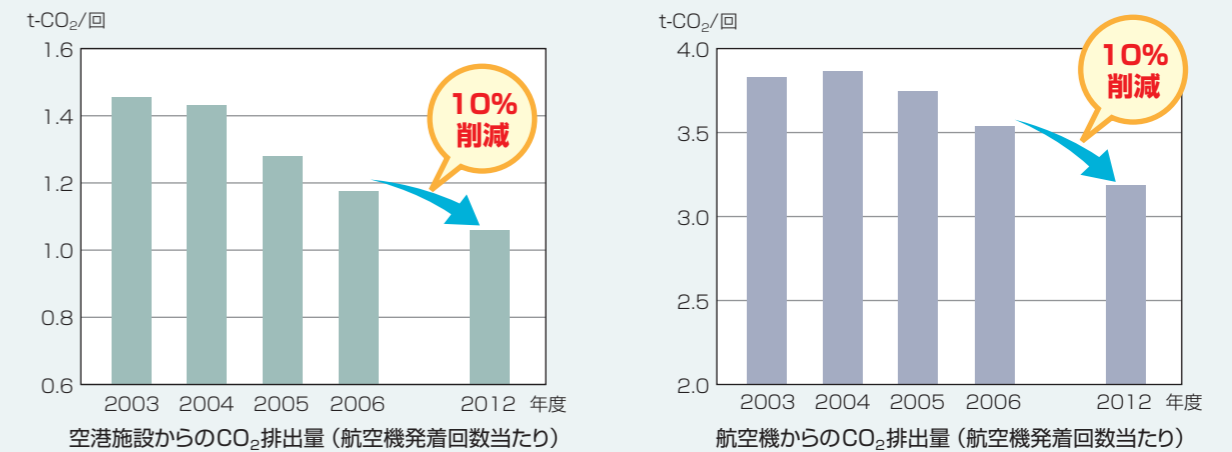
- 「環境管理委員会」が計画の諸施策を推進し、その管理（見直しと改善）を行う
- 「省エネルギー委員会」が空港施設の省エネルギー対策とそれによるCO₂排出削減を進める
- 主要な島内事業者等をメンバーとした「エコ愛ランド推進協議会」を設置し、島内事業者等と協力して計画を進める

✦ 新しいエコ愛ランド推進計画の特徴

✦ 数値目標の設定

計画に定める取組を推進するとともに、その達成度を評価するために目標を設定しています。目標設定に当たっては、大気質や水質、エネルギー使用量、温室効果ガス排出量、リサイクル率など数値化可能な項目については可能な限り数値目標を設定しています。また、数値目標の設定が困難な取組についても可能な限り取組状況の定量的な把握に努めるようにしています。

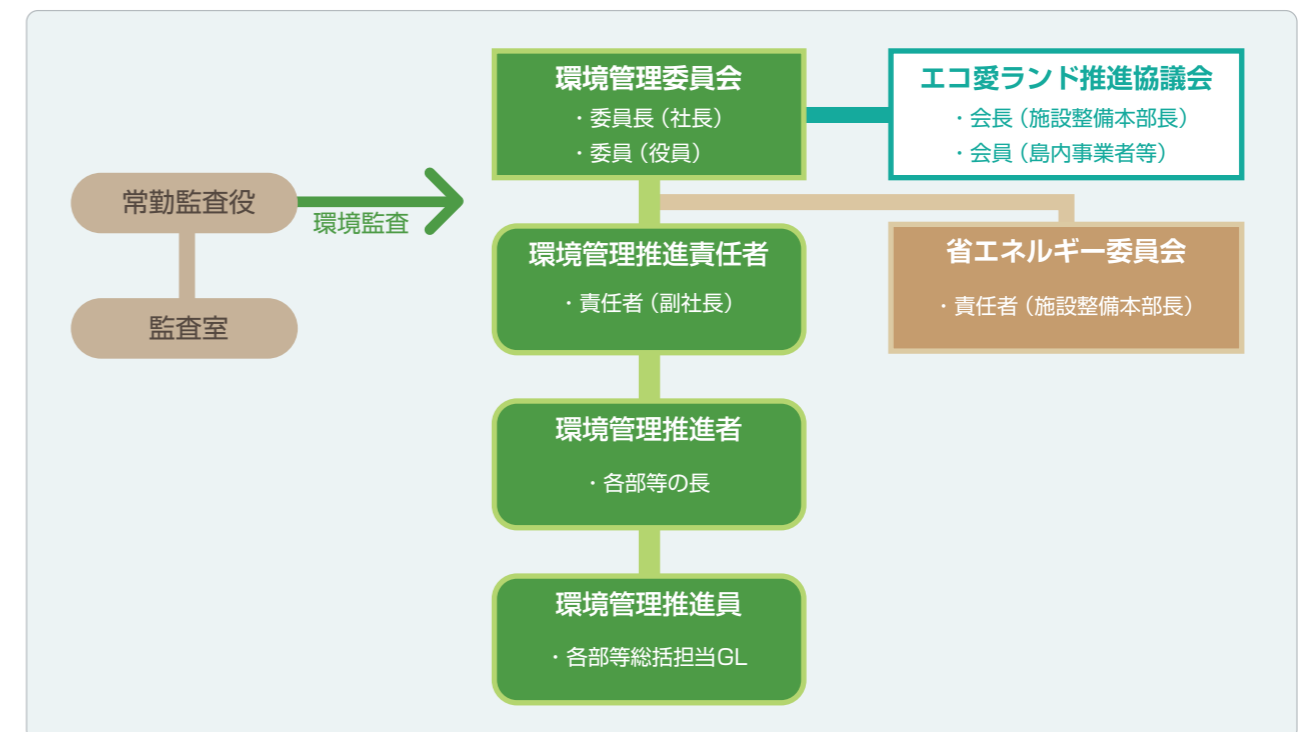
目標設定の例



※計画の進捗を評価する観点から、受電に伴うCO₂の排出係数は一律に関西電力の平成18年度排出係数で計算しています。

✦ エコ愛ランド推進協議会の設置

本計画から、主要な島内事業者等をメンバーとした「エコ愛ランド推進協議会」を設置し、環境に係る情報交換を行うとともに、島内事業者等と協力して計画に定める諸施策の推進と管理を行っていきます。



基本方針

関西国際空港は、環境と共生する21世紀型空港として、公害のない、地域と共存共栄する空港を目指すとともに、地球環境的視点に立った環境対策にも積極的に取り組み、循環を基調とする持続的発展可能な「人と自然にやさしい」空港を目指し、以下の取組を行います。

1. 快適な地域環境を守る空港に向けた取組

第2滑走路の供用による発着回数の増加が見込まれる本計画期間においても、更なる取組により一層の騒音の低減に努めます。また、電波障害対策、大気環境保全、水質環境保全などの取組を進め快適な地域環境を守ります。

①航空機騒音



飛行経路遵守の徹底
(飛行経路・高度観測)



航空機騒音測定局

②電波障害



SHFテレビ中継放送局

③大気環境保全



低公害車の導入促進
(写真はハイブリッド自動車)

④水質環境保全



浄化センター



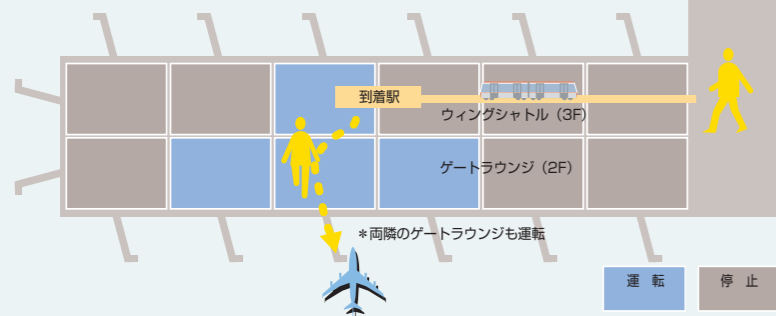
2. 地球環境への負荷の少ない空港に向けた取組

関係事業者と協力して、事業活動に伴う温室効果ガスを率先して削減していきます。また、オゾン層保護対策として、フロン等使用機器類については引き続き適切な管理を進めていきます。

①省エネルギー



LED(発光ダイオード) 灯火



旅客案内情報と連動したターミナルビル空調システム

②温室効果ガスの削減



GPU(固定動力施設)



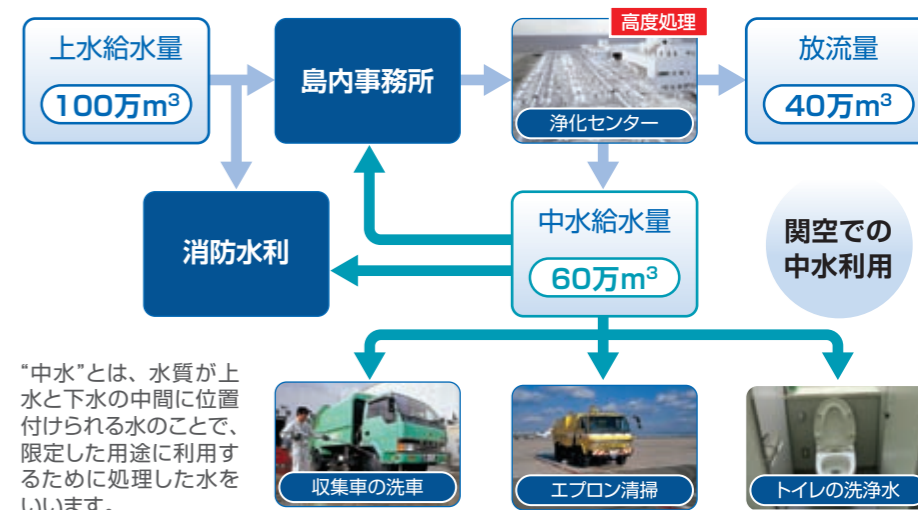
JHFC関西空港水素ステーション

3. 循環型の空港に向けた取組

廃棄物を抑制し、発生した廃棄物は有効利用するほか、中水利用による水資源の循環など資源循環型の空港を目指した取組を進めていきます。



クリーンセンター



4. 自然を大切に、触れ合いのある空港に向けた取組

関西国際空港では、2期空港島を含む空港島周辺護岸の大部分で藻場を育成しており、今後はこの多様な生物の生息する藻場の維持及び更なる育成に努めていきます。また、緑化の推進、内部水面の水質保全や親水空間の創出に取り組むことで、空港利用者が安らぎを感じる良好な空間の整備を進めます。



緩傾斜護岸の藻場



郷土種による緑化

5. 地域の人々や利用者とともに生きる空港に向けた取組

地域住民及び空港事業に係わる関係者の方々に対して、空港活動についての理解を深めて頂くよう多様な機会を通じて、情報の提供をいたします。また、空港利用者への環境学習機会の提供や、空港利用者の協力も得た環境保全の取組を進めていきます。



2期工事見学ホール



関西国際空港環境センター



空港島周辺のクルージング

✦ 主な取組と数値目標

注) 数値目標の達成目標年度は2012年度とする。

取組の分類	取組項目	活動項目	数値目標
1. 快適な地域環境を守る空港	航空機騒音	航空機騒音の低減、低騒音型航空機の導入	
		飛行経路遵守の徹底	環境基準達成率100%を維持
		滑走路の運用方法の検討及び関係機関への要望	
		低周波音の調査研究	
		関西地域における航空機騒音の低減への寄与	
	電波障害	航空機による電波障害への対応	改善対策実施率100%を維持
		大気汚染物質排出量の少ない航空機の導入促進	
	大気質保全	クリーンセンターの排ガス対策	NOx排出ガス濃度自主管理値70ppm以下(規制基準値180ppm)
		タンカー燃料の良質化	A重油以上の良質油利用率100%
		排出ガス対策型建設機械の導入推進	指導率100%
		低公害車の導入促進	低公害車・低排出ガス車導入率(制限区域内)35%以上(17年基準達成車、ハイブリッド車、電気自動車等)
		リムジンバスの低公害化の促進	
		CNG車の導入及びCNGスタンドの利用促進	
	水質保全	排水による負荷の軽減	COD放流水質を日平均12mg/l以下
COD日負荷量が30kg/日を超えないこと。(環境アセスメント予測値の約6分の1)			
2. 地球環境への負荷の少ない空港	省エネルギー対策	ライフサイクルコストも考慮した省エネ設備の導入	
		設備運用における省エネの推進	会社が管理するエネルギーの使用量(航空機発着回数当たりの量)を2006年度比5%削減
		オフィスにおける省エネの推進	
		空港における省エネ技術の開発	
	新エネルギーの利用推進		
温室効果ガス排出量の削減	タキシングルートの効率化	航空機からの温室効果ガス排出量(航空機発着回数当たりの量)を2006年度比10%削減	
	低燃費航空機の導入促進		
	GPUの利用促進	GPU利用率 75%以上 2期島における固定スポットのGPU整備率 100%	

取組の分類	取組項目	活動項目	数値目標
2. 地球環境への負荷の少ない空港	温室効果ガス排出量の削減	アイドリングストップ等の徹底	
		公共交通機関の利便性向上および利用促進	代替バスを100台/年程度以下
		クリーンセンターからの温室効果ガスの排出低減	ビニール類混入率10%以下
		空港施設からの温室効果ガスの削減	空港施設等(航空機を除く)からの温室効果ガス排出量(航空機発着回数当たりの量)を2006年度比10%削減
		フロン等の管理	フロン等使用機器等の管理
	3. 循環型の空港	資源の有効利用	一般廃棄物の減量化及び再資源化
産業廃棄物の減量化及び再資源化			
建設副産物の有効利用			島内から発生した土砂のリサイクル率100%(再利用可能な土砂に限る)
水循環		環境に配慮した物品購入	
		排水の高度処理と中水利用	上水供給量(航空機発着回数当たりの量)を2006年度比5%削減
		節水対策の推進	
4. 自然を大切に、ふれあいのある空港	自然環境	緩傾斜石積護岸での藻場のモニタリング等 空港島内の緑化	
	景観の保全	空港島内の景観保全等	
5. 地域の人々や利用者とともに生きる空港	情報公開	騒音苦情処理体制の充実	苦情等への対応率100%を維持
		環境監視データの公開	
		環境に関する報告書の作成・公表	
	地域社会との対話と連携	情報提供機会の多様化及び地域社会との交流	
		環境学習の場の提供	
		社会貢献活動の充実	
国内外他空港等との連携	空港利用者と連携した環境保全活動の推進		
国内外他空港等との連携	国内外他空港や国際機関等との連携		

